

## 岡山城太鼓櫓・内下馬門の復元に向けて

島 充

岡山城太鼓櫓及び内下馬門のより正確な復元に資するため課題を明確にする。

### 1 瓦

南面丸瓦列数および出土瓦より、丸瓦の芯々9寸見当で割り付けると遺構寸法に対して納まりがよい。

### 2 軒の出

丸瓦芯々9寸を前提とすると、隅部の瓦の納まりから、軒の出はそれぞれ以下の数値となる。

#### [太鼓櫓]

初重 壁面より三尺、柱芯より三尺五寸

二重 壁面より四尺 柱芯より四尺五寸

三重 壁面より四尺 柱芯より四尺五寸

#### [内下馬門]

壁面より約四尺 柱芯より四尺五寸

### 3 平面グリッド

発掘調査報告書の指摘の通り、南面(太鼓櫓桁行方向)は六尺五寸グリッドで写真の通りに納まる。

#### ◆課題

太鼓櫓梁間方向の柱間寸法。

古写真より、梁間四間であることは明らか。三重目瓦数より、上重は正方形ではなく西面平側の方が瓦三列分(三尺弱)短い三間であることが分かる。

→当初案・・・六尺五寸での三間半の四つ割り・・・一間を五尺七寸として作図

#### ※内下馬門柱間

古写真より桁行柱間は十間。東面向かって左四間は狭く残り六間は広い。

遺構寸法から、狭い柱間を六尺、広い柱間を七尺とすると門の北端が脇石垣に塩梅よく乗るばかりでなく、門礎位置とも合致する。

梁間は太鼓櫓と同じく六尺五寸とすると、門礎がちょうど食い違い半間のグリッドに合致する。

内下馬門のグリッドは太鼓櫓に対して2～3度振れる。

#### 4 各階平面

##### [太鼓櫓一階]

石垣が軽く内なりに弧を描いたバチ型である。古写真では石垣と建物の間に余白や張り出しはない。

→石垣に沿った湾曲平面である可能性

##### [太鼓櫓二階]

古写真では一階の窓に見える柱と二階の格子窓に見える柱が連続しておらず、二階の柱がズレるか一階の柱より前面に張り出しているように見える。

→熊本城北十八間櫓のように、一階の湾曲平面に対して、出し桁の腕木以上で調整し、平面を整形にしている可能性

##### [太鼓櫓上重]

前述の通り正方形ではなく妻側の方が幅広。

※大屋根と壁面立ち上がりの境目が若干切れ上がっているようにも見える。

可能性1 二階平面が不整形→検討図作図も立面検討で古写真と齟齬が生じ排除

可能性2 上重が二階に対して若干振れている可能性

可能性3 目の錯覚か写真のゆがみ

#### 5 検討案グリッド

以上を総合し建物軸線として【検討案】グリッドを提示する。

●太鼓櫓梁間方向柱間は六尺 櫓台北西隅の余り部分もちちらのほうが見え方は近いように感じられる。

●報告書遺構図に対して一度振ってグリッドを重ねると塩梅よく重なる。石垣外周に近接したりする部分は前述の通り二階平面で調整しているとすれば納まりがよい。

●上重を残存礎石軸線に合わせると全体より一度振れることになり、古写真の屋根境の切れ上がりが生じる可能性が高い。

#### 6 屋根勾配

##### [太鼓櫓三重屋根勾配]

太鼓櫓上重は7寸勾配か。屋根自体に反りがある。古写真の瓦の曲線描き起こしから抽出すると全体を下から5.5と4.5に分割したところで最大たるみが5寸5分ほどか。

#### 【太鼓櫓二重勾配】

古写真から急勾配に見える。大棟と三重軒との近接具合、三重窓と屋根との位置関係、窓と大棟との高さ関係などから7寸五分～八寸と見えるが梁間方向の柱間によって高さが変動するため確定が難しい。

屋根自体にほんのわずかながら反りがある。

#### 【太鼓櫓初重勾配】

古写真の見え方から6寸程度か。検討図では5.5寸としたが明らかにゆるく見える。

#### 【内下馬門】

古写真の見え方から太鼓櫓三重目と同勾配。7寸か。

## 7 まとめ

課題は太鼓櫓梁間方向柱間寸法と太鼓櫓二重大屋根の勾配である。

#### 【別添資料】

- ・古写真観察内容
- ・グリッド案
- ・未完立面図
- ・平面検討図

概略寸法と一部推定細部寸法を算出したが、解析が進めば同じような値が出るはずであるので参考として添付するにとどめる。